

# 北朝鮮人道支援の会 ニューズレター NO.56

(朝鮮民主主義人民共和国)

編集・発行人 吉田 康彦

〒330-0855 さいたま市大宮区上小町1145 TEL:048-641-8203 FAX:048-647-6191

E-mail: yy2448@chive.ocn.ne.jp URL: http://www.yoshida-yasuhiko.com/

郵便振替番号: 00140-4-126579 加入者名「北朝鮮人道支援の会」

## 2009年 3月1日

### 拉致問題は“解決”しない

#### ——日朝国交正常化を阻むもの

日本政府は、「拉致問題の解決なくして日朝国交正常化なし」を基本方針として「解決」に向けて北朝鮮に圧力をかける目的で経済制裁を課している。制裁は2006年10月の北朝鮮の核実験を機に導入されたもので、ヒト・モノ・カネの交易・交流禁止を柱としているが、実施以来2年半何らの成果もあげていない。

日本政府が求めている「解決」とは、①拉致被害者全員の生還 ②実行犯の引き渡し ③全容の解明、以上3点であるとして、制裁解除のためには少なくとも「解決」に向けての「進展」が不可欠ということになっている。けだし「正論」である。

この3条件に国民が異論をさしはさむ余地はなく、世論は文句なしで支持している。北朝鮮側の事情など一切無視している。

北朝鮮当局は、2002年9月19日の小泉訪朝に際して、日本政府認定の拉致被害者15名のうち、5名生存(蓮池・地村夫妻と曾我ひとみさん)、横田めぐみさん以下8名死亡、残り2名は入国の記録なし、と発表。金正日総書記が小泉首相に対し、「英雄主義・妄動主義に駆られた特殊機関の仕業」としながらも拉致を認め、「遺憾の意」を表して事実上謝罪、「2度と起こさないようにする」と約束した。その後は「拉致問題は解決済み」とし、金正日も「もう拉致被害者は残っていない」と再三表明している。

日本政府3条件は、これを全面的に否定し、「死んだというなら生き返らせて返せ」と主張しているに等しい。「死亡」といわれども死亡証明書の記載事項に疑念がぬぐえない。「横田めぐみさんの遺骨はニセだった」というのが家族・関係者の言い分だ。

真相は、特殊機関が証拠をすべて隠滅してしまい、遺品も遺骨も残っていないようだ。めぐみさんの遺骨はニセと断定はできないまでも、高熱で2度焼いており、DNA鑑定は不可能。鑑定にあたった吉井富夫氏(帝京大学講師＝当時)も「ニセとは断定していない」(英誌『Nature』報道)とはいうものの、かといって本物かどうかはわからないというのが真相。

3条件の2番目、「実行犯引き渡し」も非現実的だ。その1人とされる辛光洙は人民の英雄として勲章をもらい表彰されている。

3番目の「全容の解明」はなおさらだ。脱北者の証言によれば、拉致はすべて金正日の指令で行われている。つまり最高指導者の罪状を告発し、国家テロを暴露、そんな体制の国とは国交正常化しないという既成事実を作ろうとするものだ。

いずれにせよ、「拉致問題の解決」といえば聞かえはいいが、日本政府は、家族の憤懣、世論の怒りを背景に、絶対に解決しないことを承知で「解決」を要求していることになる。

それでいいのだろうか。どこまで責めるだろうか。すべてはオバマ政権の動向にかかっている。ブッシュ前政権は「テロ支援国家指定解除」の決定までは行ったが、時間切れで「朝鮮半島

非核化」は未解決に終わってしまった。おかげで日本も「拉致問題解決」を叫び続けることができた。ブッシュ前政権に絶大な影響力をもっていたネオコンが同調し、支持してくれたからだ。しかしオバマ政権は日本の手の内を知りつくしている。拉致問題は「解決」不可能だ。あるのは高度の「政治決着」しかない。

<<吉田 康彦>>

### 『南北コリアと日本のともだち展』は今年も開催します

筒井由紀子・寺西澄子

日本と朝鮮半島に住む子どもたちを絵とメッセージでつなぐ『南北コリアと日本のともだち展』。各地でたくさんのおもたちが出会い、交流してきました。9年目となる今年ワークショップが中心です。東京、ピョンヤン、ソウルで絵画ワークショップおこない、最後に東京の展示会(10月)でその成果を披露します。

東京展には全国からの公募作品と同時に、南北コリアと日本の子どもたちが制作した共同作品を紹介する予定です。

この共同制作には、韓国の著名な絵本作家で日本人にも親しまれている柳在守(リュウ・ジェス)さんが全面的に協力して下さることになりました。柳さんが描いた「平和の木」に、日本・韓国・朝鮮に住む子どもたちが絵の具やクレヨン、毛糸や布、木の葉や草などを使って装飾し、自然との共生、北東アジアの友だちとの共生、ひいては地域の平和共存を表現していきたいと思っています。

ワークショップは5月に東京で開催。韓国から訪れる子どもたちとともに共同制作をします。8月にはピョンヤンを訪れて、東京で制作したものは別の一部分をピョンヤンの子どもたちとともに完成させます。9月にはソウルで、さらに別の部分を韓国の子もたちとつくりあげたいと思っています。こうしてできあがった3つのピースが、最後に東京の展示会で出会うことになりま...はたしてどんな世界ができあがるでしょうか。

#### ☆東京ワークショップのご案内

5月16日(土)、都内で開催(会場は未定)。来日する韓国の子どもたちとともに交流し、作品づくりに参加して下さる小・中学生(30名程度)を募集しています。

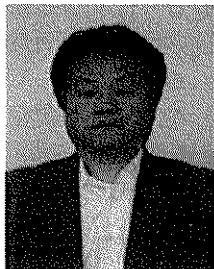
#### ☆東京絵画展のご案内

10月23—25日、青山の「こどもの城」で開催。テーマが決まり次第、この展示会への出品作品も追って募集します。賛同金を集めています。ぜひご協力下さい。振込先は下記の通りです。郵便振替:00100-4-540884「南北コリアと日本のともだち展」

【『南北コリアと日本のともだち展』実行委員会事務局】

## 【報告】 杉本・野本両氏の「共和国親善 勲章」受賞を祝いつつ日朝松本 市民会議総会に70名が参加

日朝松本市民会議事務局長 荒井 宏行



日朝松本市民会議(杉本文男会長)第26回定期総会が、2月13日松本市内の県松本勤労者福祉センター会議室で開催されました。総会には、市民団体、労働組合、訪朝経験者、朝鮮総連関係者、地元の大学関係者ら70名が参加しました。

これより先の昨年12月6日、日朝松本市民会議からは杉本会長、野本光志副会長のお2人が、共和国創建60周年の9月に県民会議第14次訪朝団のメンバーとして訪朝しましたが、長年の実績が評価され、共和国親善勲章を受勲。これを祝うレセプションが松本市内のホテルで開かれ、県内各地から120名が参加しました。

13日の総会では、はじめに杉本会長が来年30周年を迎える松本市民会議の活動を振り返り、いまこそ在日朝鮮人の権利擁護が必要と長野朝鮮初中級学校支援を訴えました。市民会議は、この1年間、日本政府による対共和国経済制裁の中止と朝鮮総連への弾圧に反対する行動、日朝平壤宣言にもとづく日朝国交正常化の早期実現、長野朝鮮初中級学校支援カンパなどの取り組みをおこなってきました。

9月には松本市議会を始めとする市町村議会に対して、経済制裁の中止と日朝国交正常化交渉促進などの意見書採択をもとめる陳情を行ないましたが、残念ながら、全ての議会で不採択となりました。今後とも、日朝国交正常化が朝鮮半島の非核化ならびに北東アジアと日本の平和に寄与する着実な道筋であることを強く訴えていくことが必要と確信しています。



総会の第2部では、大阪経済法科大学客員教授の吉田康彦氏が、「オバマ新政権下の朝鮮半島非核化の展望」と題する記念講演を行ないました。吉田氏の講演は今年で7年連続となりました。吉田氏は、オバマ政権の評価について、「未曾有の金融恐慌と厳しさを増す中東情勢や米朝関係に比べ、朝鮮半島は総体的にウエートが低い」という前提で、「本格

的な米朝国交正常化まではオバマ政権の1期目4年を要するだろう」と分析。共和国に「強盛大国の大門が開く、金日成主席生誕100周年と金正日総書記生誕70周年の2012年に急展開を期待してよい」と予測しました。

日朝関係については、「日朝国交正常化こそ両国の国益に合うことだ。拉致問題の解決には、突き詰めて追及しない“政治決着”しかないが、タブー視せず何が解決なのかを議論すべきだ。そして拉致問題を交渉の入り口におかず出口に置くべきで、そのために国民世論喚起のための努力が不可欠だ」と訴えました。

日朝市民会議は来年(2010年)結成30周年を迎えます。これを記念して松本空港から平壤に直行するチャーター便を飛ばそうと計画しています。皆さんのご参加も歓迎します。

## 通信欄

春爛漫の季節になりました。日朝国交正常化の早期実現ならびに日朝友好親善のための支援にご協力ください。

以下はニューズレター前号(2009年1月1日付)刊行以来、会費・義援金を納入して下さいました方々です。(納入受領日付順・カッコ内は納付・寄託金額/敬称略)

### 【年会費2000円プラス寄付金】

中嶋篤之助(2000円)、館野 淳(2000円)、小山内美江子(3000円)、木村英亮(2000円)、鹿野 明(3000円)、北羅 修一(5000円)、岬 暁夫(6000円)、趙 深宅(3000円)、席 占明(2000円)、川崎 学(5000円)、伊関 要(3000円)、高橋秀典(3000円)、杉本文男(2000円)、小松清志(4000円)、三宅正勝(2000円)、高坂美幸(2000円)、荒井 静(2000円)、村上菜美(2000円)、引地慶子(2000円)、

累計人道支援基金・運用資金 229,329 円

(2009年2月末日現在)

当会の年会費2000円は「ニューズレター」の購読料金で、会員としての最低限の拠出額です。年間の編集・印刷費用、郵送料、事務経費で、ほぼ相殺されます。2000円に上乗せして送金して下さいる額が人道支援の基金です。金額は自由ですが、なるべく多額のご寄付をお願いします。寄付は常時受付けています。

## <短信>

### 今年の北朝鮮の食糧事情

韓国統一省が2月19日公表したところによると、北朝鮮の今年の食糧不足量は117万トンと推計された。昨年の生産量は431万トン、これに対し年間需要は548万トンとされている。

この推定は、本誌前号で紹介した数字よりもかなり深刻な状況になっている。おそらくこの方が実態に近いであろう。

他方、貿易は中朝間が27.8億ドル(前年比41.2%増)だったのに対し、南北間は18.2億ドル(前年比1.2%増)にとどまった。中朝貿易が全体の60%以上を占め、北朝鮮の中国依存の度合いはますます高まっている。【韓国聯合ニュース】